

5月9日（木） もう教育部門1「いろいろな見え方」

○「弱視」とひとことでも、見え方は人それぞれです。同じ眼の病気だからと言っても、見え方が同じとは限りません。

①ピンボケ状態

・眼鏡やコンタクトレンズを使っている方は、それらを外したときにピントが合わない、いわゆるピンボケの状態、になっていると思います。屈折異常により、ピントが合わず、鮮明な映像となっていない状態です。

②混濁状態

・光を通す部分は何らかの原因で濁ったため、映像が不鮮明な状態です。例えば、白内障で水晶体が濁ったときなどに起こります。

③明暗順応不良

・日向から日陰に入る、トンネルを通るなどで明るい・暗いの変化への対応が難しく、見えにくい状態です。

④視野狭窄

・見える部分が限定されている状態です。中心部が見える場合は比較的視力は良好なことが多いですが、周辺が見えないため足元や周囲が見えていません。上方だけ見える、一部分だけ見える、まだらに視野が欠けるなどの症状もあります。

⑤中心暗点

・視野の中心が見えません。周辺視野がありますが、視力はあまりよくありません。

○弱視の方はこのような眼の状態がいくつも重なっている場合が多いです。当校にも紹介したような見え方の生徒が何人もいます。生徒たちは一人で移動していますが、何かある、人がいるなどが分かっても、細かいところや誰がいるかということとはわからないことが多いですし、文字を読むときは補助具などが必要です。